

小学校

平成7年度

# 教育研究員研究報告書

体 育

東京都教育委員会

## 教育研究員名簿 第40期

### 第一分科会（保健）

地区	学校名	氏名
千代田区	九段小	加納聖一
台東区	柳北小	○備藤暢介
江東区	扇橋小	高野真二
荒川区	第六日暮里小	□斉藤喜美男
足立区	千寿小	吉田一義
足立区	花保小	馬場智
葛飾区	松南小	越澤忠雄
江戸川区	新堀小	笠間良子
江戸川区	西小岩小	牧野昭太郎

### 第二分科会（表現運動）

地区	学校名	氏名
新宿区	落合第五小	村越信行
品川区	京陽小	中嶋浩信
大田区	大森第二小	田中啓之
中野区	上高田小	□古賀靖真
杉並区	杉並第十小	○菊池貞和
北区	王子第二小	野田豊
板橋区	大谷口小	鈴木千鶴穂
板橋区	高島第六小	宮澤晴彦
練馬区	向山小	小林克彦
練馬区	石神井台小	岩井純一郎

### 第三分科会（表現運動）

地区	学校名	氏名
世田谷区	明正小	光明昇
八王子市	櫛田小	田代均
八王子市	長沼小	丘季子
府中市	府中第一小	○根本哲郎
調布市	石原小	後藤真司
町田市	町田第四小	大川優
多摩市	南永山小	□遠藤昇
多摩市	北諏訪小	小島邦男

### 第四分科会（保健）

地区	学校名	氏名
立川市	松中小	○仁科寿一
青梅市	第一小	小川広樹
昭島市	中神小	□青柳美登里
東村山市	南台小	阿部智明
国分寺市	第三小	◎黒木公一
保谷市	泉小	田中尚美
福生市	福生第二小	海東朝美
武蔵村山市	第十小	浜中佳規

総世話人◎    ○世話人    □副世話人

担当 教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 海東元治  
 教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 菅原健次  
 教育庁体育部体育健康指導課 指導主事 杉山雅勇

# 目 次

## 保健部会

I	研究主題・研究主題設定の理由	2
II	研究の構想	3
III	研究の内容	3
1	保健領域の学習の在り方	3
2	保健領域学習で育てたい児童の力	3
3	実態調査	4
4	研究の視点	7
(1)	身近な生活から課題をつかむ工夫	7
(2)	解決の見通しをもって学習を進める工夫	7
(3)	学んだことを生活に生かす評価活動の工夫	7
5	実践事例	8
(1)	身近な生活から課題をつかむ工夫	8
(2)	解決の見通しをもって学習を進める工夫	9
(3)	学んだことを生活に生かす評価活動の工夫	10
6	課題解決的な学習過程	11
7	学習資料	12

## 表現運動部会

I	研究主題・研究主題設定の理由	13
II	研究の構想	14
III	研究の内容	14
1	実態調査	15
2	研究の視点	18
(1)	学習過程の工夫	18
(2)	教師のかかわり方	18
①	導入の工夫	18
②	動きを高める工夫	18
③	学習計画を立てる工夫	19
(3)	評価活動の工夫	19
3	実践事例の工夫	20
(1)	学習過程の工夫	20
(2)	教師のかかわり方	21
①	導入の工夫	21
②	動きを高める工夫	21
③	学習計画を立てる工夫	22
(3)	評価活動の工夫	23

## 保健、表現運動部会研究のまとめ

24

## 保 健 部 会

### I 研究主題・主題設定の理由

「児童が進んで健康で安全な生活を営む能力や態度を高める体育学習」  
—— 保健領域における課題解決的な学習を通して ——

これからの体育学習においては、生涯体育・スポーツの視点に立ち、一人一人の自己実現のために、生きて働く力となる基礎的・基本的な内容の学習を深化させるとともに、それぞれのよさや可能性が発揮され、互いに学び合い、かかわり合いながら、意欲的な学習活動が展開されるよう工夫することが重要である。このことを受け、保健領域の学習では、児童一人一人が自分自身の健康や安全に関心を持ち、生涯を通じて進んで健康で安全な生活を営む能力や態度を身に付けることをねらいとしている。

ここでいう健康で安全な生活を営む能力や態度とは、単なる知識・理解だけにとどまらず、身近な生活を振り返り、健康や安全について自ら考え、正しい判断によって適切に対処し、生活実践に生かしていく能力や態度のことである。

研究を進めるにあたり、各小学校における保健学習の展開の仕方を調査したところ、身近な生活の中から課題を設定し、児童が主体的に取り組む学習は、あまり行われていないという結果が得られた。児童が健康や安全への興味・関心を持ち、進んで健康で安全な生活を営む能力や態度を身に付け高めるには、課題解決的な学習を進めることが有効である。課題解決的な学習は、主体的に課題を解決しようとする児童の意欲を引き出すことができる。また、課題を解決する喜びを味わうことにより、自らの生活実践に結び付けていくことができると考えた。

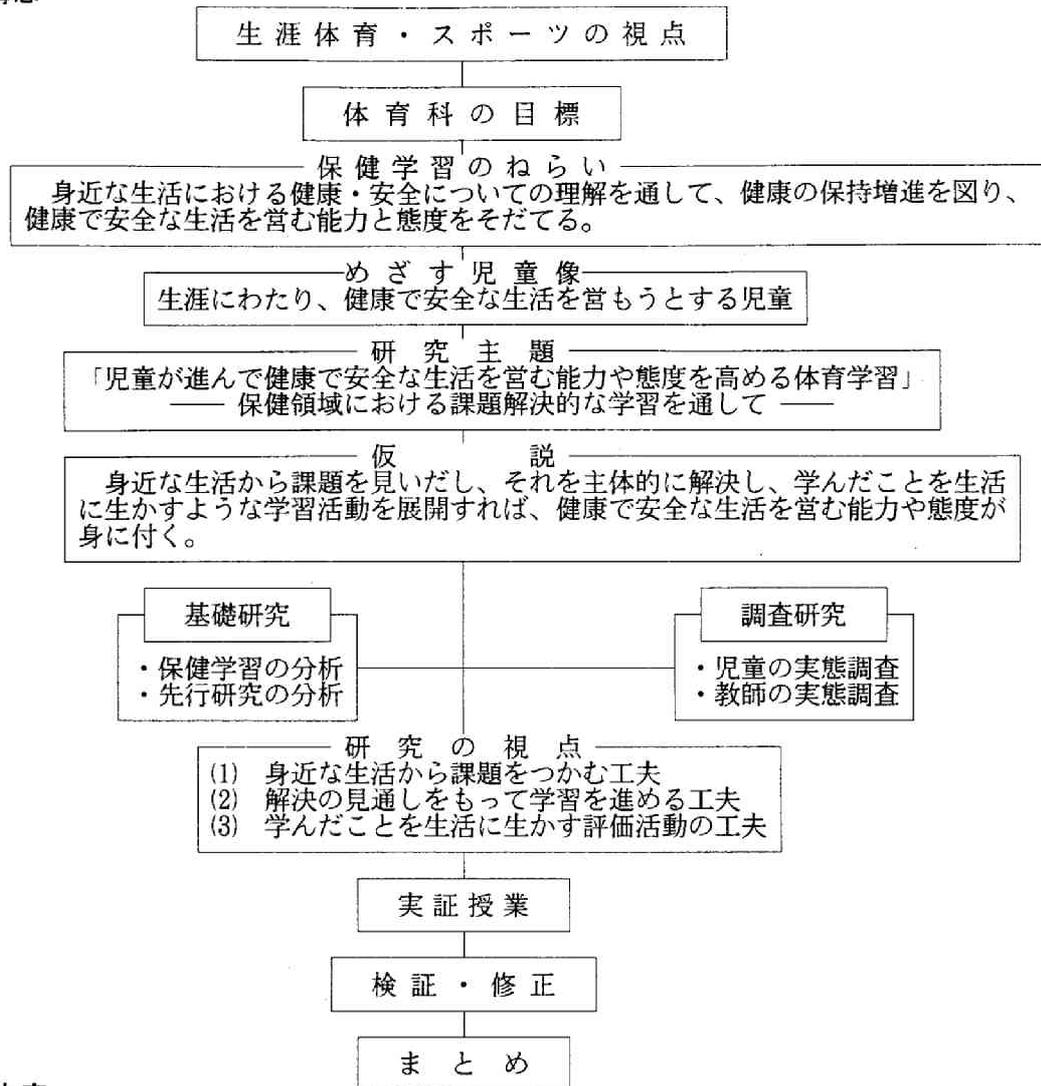
以上のような考えにより、研究主題を

「児童が進んで健康で安全な生活を営む能力や態度を高める体育学習」  
—— 保健領域における課題解決的な学習を通して ——

と設定し、次のような視点で研究を進めていくことにした。

- (1) 身近な生活から課題をつかむ工夫
- (2) 解決の見通しをもって学習を進める工夫
- (3) 学んだことを生活に生かす評価活動の工夫

## II 研究の構想



## III 研究の内容

### 1 保健領域の学習の在り方

児童にかかわる健康問題が大きく変化し、保健領域の学習では、今までの知識習得中心の学習から、児童一人一人が主体的に学習を進め、判断力や実践力を身につける学習へと学習そのものの転換が求められている。

そのためには、児童が身近な健康問題に気づき、その問題に主体的に取り組み、解決していく課題解決的な学習を進めていく必要がある。また、身近な健康問題を取り上げ、自ら解決する喜びを味わわせることで、児童の意欲を引き出し、効果的に生活実践に結び付けていけると考える。

### 2 保健領域の学習で育てたい児童の力

保健学習では、自分の身近な生活の中から課題を見付ける力や、その課題を解決していく力を育てる必要がある。

そのことが生涯にわたって、健康で安全な生活を営むための科学的な知識・理解、思考力・判断力を育てることになり、学んだことを実生活に生かしていく実践力につながると考える。

### 3 実態調査

#### (1) 調査の目的

① 「保健学習」における児童の意識と教師の意識、指導の実態を調査し、研究を進めていく上での手掛かりとする。

#### (2) 調査の方法 (質問紙法)

- ① 調査時期 平成7年6月中旬  
 ② 調査対象 ○児童 研究員(保健部会)所属の学校の5、6年生1学級ずつ  
 ○教師 研究員所属の学校及びその区市の無作為抽出校の5、6年学級担任経験者

<回答数>

児童	教師
1074人	425人

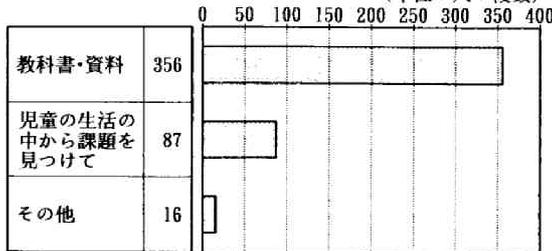
#### (3) 調査結果の分析と考察

##### ① 教師の指導の実態

##### 1 保健の授業を、どのように行っていますか。

教科書・資料を中心に	児童の生活の中から課題を見つけて
356	87

(単位：人：複数)



その他 16

- ・児童から課題を、教科書も使用する
- ・養護教諭の協力を得て
- ・他教科との関連で

##### ◇分析

- ・保健の授業が、教科書・資料を中心に行われている。
- ・児童の生活の中から課題を見つけての授業は少ない。

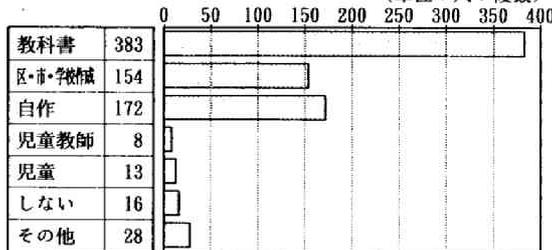
##### ◆考察

- ・教科書の有効な使用方法や各単元における具体的な資料の提示が必要と考えられる。
- ・保健の学習は、身近な生活から問題を取り上げ、自分の生活を見つめ直していくことが大切だと考える。

##### 2 保健の授業で、どのような資料を使用しましたか。

教科書	区・市・学校作成	自作	児童と教師が作成	児童が作成	使用していない
382	154	172	8	13	16

(単位：人：複数)



その他 28

- ・市販の資料、VTR
- ・母子手帳、写真、健康カード
- ・新聞

##### ◇分析

- ・「教科書」や「自作資料」「市・区・学校などが作成したもの」が多く使用されている。

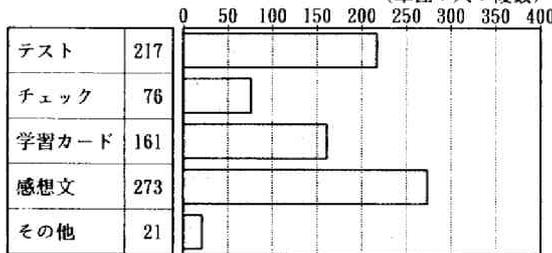
##### ◆考察

- ・保健学習が生活実践へ結び付いていくことが大切であることから、児童にとって身近な資料や情報等の提供の工夫が必要である。

##### 3 保健の授業で、児童に対する評価をどのように行っていますか。

テスト	チェックリスト	学習カード	感想文
217	76	161	273

(単位：人：複数)



その他 21

- ・学習への取り組み方(発言、態度)
- ・作品、新聞
- ・現実にはできていない

##### ◇分析

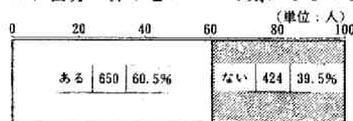
- ・感想文、テスト等を使った学習後の評価が多い。
- ・チェックリスト、学習カード等を使っての学習中の児童の変容に目を向けている教師もいる。

##### ◆考察

- ・学習後の評価だけでなく、学習中の変容をとらえ支援していくことが大切と考える。そこで、学習過程における評価の方法や内容を明らかにしていく必要がある。

##### ② 保健学習における児童の取り組みに対する意識

##### 1 あなたは、自分の体や心について気になることがありますか。

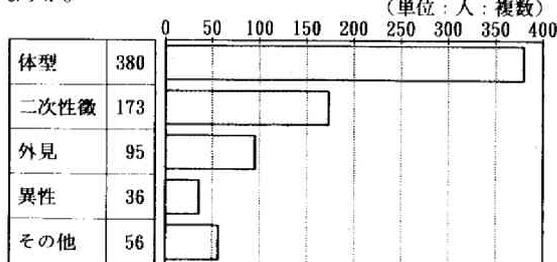


##### ◇分析

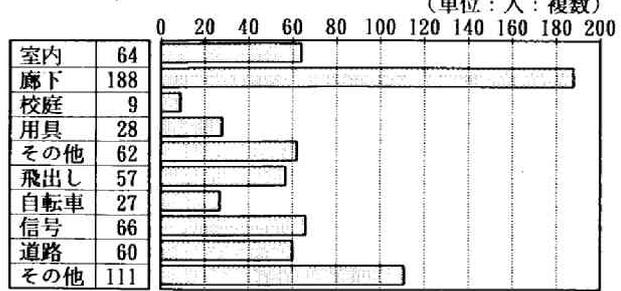
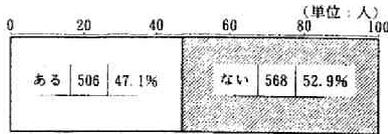
- ・「体や心」について気になることのある児童は6割をこえている。
- ・身長や体重など体型を気にしている児童が多い。

##### ◆考察

- ・思春期を迎える児童であることから、体型や二次性徴を気にしている児童が多い。このことから、体の発育や変化、一人一人の特性の違いについて正しい知識をもたせることが大切であると考える。



2 あなたが学校や地域・家庭で、安全に生活するために気をつけたらよいと思うことはありますか。(単位：人：複数)



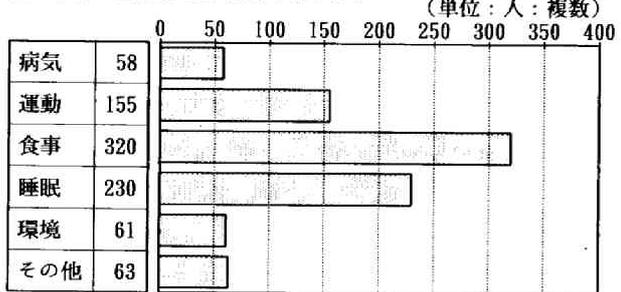
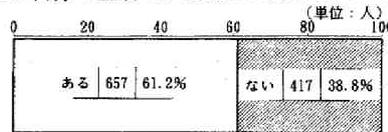
◇分析

- ・「安全な生活」について興味・関心をもっている児童は5割に満たない。
- ・安全に生活するために気をつけている項目をみると、児童の生活経験に結び付いているものが多い。中でも、人の行動に結び付けている項目が多く、周りの環境に結び付けている項目は少ない。

◆考察

- ・自分の心身の健康に比べ、興味・関心が低い。生活を振り返る手だてや教師の働きかけ（周りの環境にも目を向けさせること）などの工夫が必要である。

3 あなたが自分の生活で、健康に生活するために気をつけたらよいと思うことはありますか。(単位：人：複数)



◇分析

- ・「健康な生活」について興味・関心をもっている児童は6割をこえている。

◆考察

- ・「健康な生活」では、食事・睡眠・運動に対する意識が高く、回答例をみても具体的なものが多いので、児童が課題を見つけやすいといえる。

③ 保健学習に対する意識 (教師用)

保健の授業で、特に力を入れたいと思う点を選んでください。(単位：人：複数)



◇分析

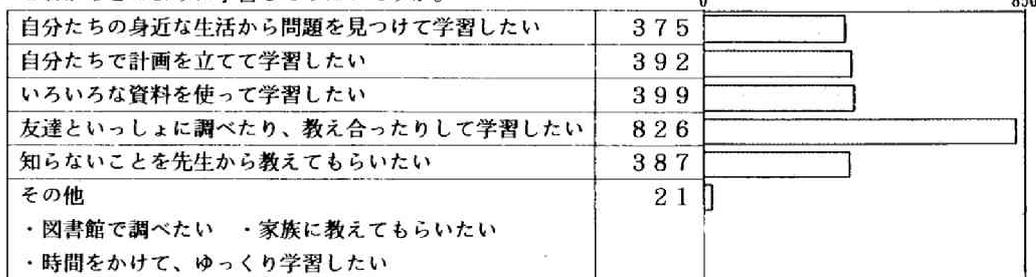
- ・「児童の身近な生活から問題を取り上げたい」と考える教師が最も多い。学習環境を整えることと、学習態度の育成がそれに続く。
- ・評価の工夫に対する教師の意識は低い。

◆考察

- ・児童の身近な生活から問題を取り上げた学習の進め方を工夫する必要がある。
- ・児童が主体的に学習していくためには、学習を自分で振り返ったり、友達と確かめ合ったりする評価活動を取り入れていくことが大切である。そのためには、教師は自己評価活動・相互評価活動に目を向けることが大切である。

(児童用)

あなたは、自分の成長の仕方や健康・安全について、これからどのように学習してみたいですか。(単位：人：複数)



◇分析

- ・「友達といっしょに調べたり、教え合ったりして学習したい」と考える児童が多い。
- ・身近な生活から問題を見つけて学習したり、いろいろな資料を使ったり、計画を立てて学習したり、先生から教えてもらいたいと考えている児童もいる。

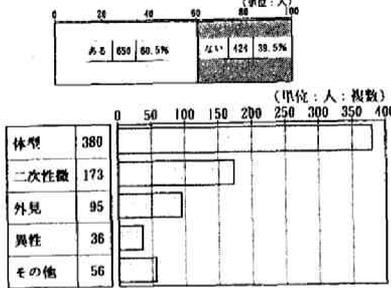
◆考察

- ・児童同士が学び合う楽しさを実感できるように、教え合ったり、活動を見合ったりする学習の場が必要である。

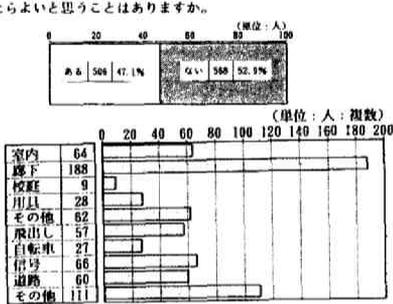
(4) まとめと今後の課題

【児童用】

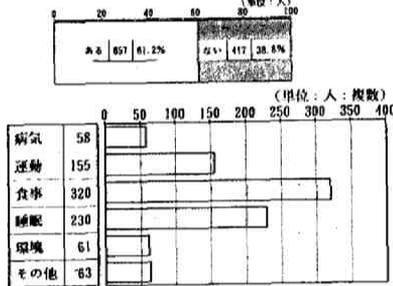
1 あなたは、自分の体や心について気になることがありますか。



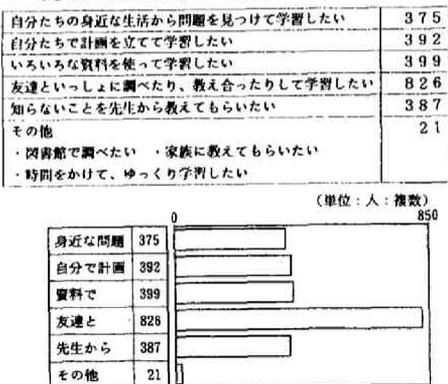
2 あなたが学校や地域・家庭で、安全に生活するために気をつけたらよいと思うことはありますか。



3 あなたが自分の生活で、健康に生活するために気をつけたいと思うことはありますか。



4 あなたは、自分の成長のしかたや健康・安全について、これからどのように学習してみたいですか。



【課題のつかませ方について】

保健学習は、教科書を中心に行われている。教師の意識調査からは、児童の身近な生活から課題をつかませたいと考えていることが分かる。保健学習は、児童の実生活に結び付くことがねらいであるから、児童の身近な生活から課題をつかませていく具体的な手だてを明らかにする必要がある。

【身近な問題に関する意識】

児童は、自分の体や心、健康な生活についての興味・関心が高い。それに比べ、安全な生活に関しては、さほど関心が高くない。児童の生活から課題をつかませていく際に、教師側からの有効な資料・情報提供等の支援が必要である。

【学習の進め方について】

児童は、友達と調べたり、教え合ったりして学習することに高い関心をもっているが、教師の意識はさほど高くない。教師は、児童相互の学び合いの場を取り入れた学習の展開を考えていく必要がある。その際に、学習の進め方が分かっていると見通しをもちやすい。そこで、児童が主体的に学習を進めていく支援の在り方を明らかにしていく必要がある。

【評価について】

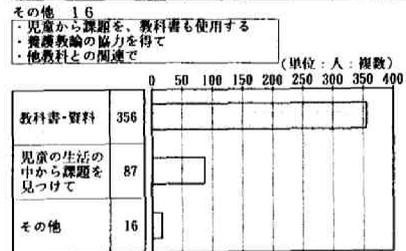
自己評価や相互評価の工夫に関する教師の意識は低い。一人一人の児童のよさをのばすことができるような評価の方法や内容を明らかにしていく必要がある。保健学習では、身近な問題を取り上げ、自分の生活を見つめ直していくことが大切である。

今後の課題

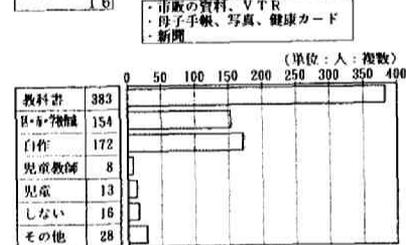
- ①課題のつかませ方の工夫
- ②学習を進める工夫
- ③評価活動の工夫

【教師用】

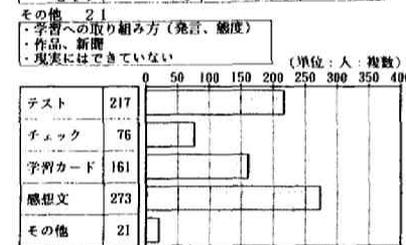
1 保健の授業を、どのように行っていますか。



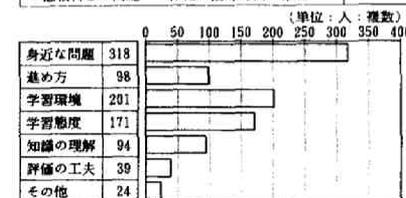
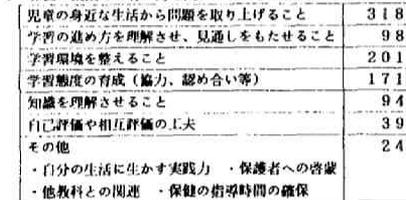
2 保健の授業で、どのような資料を使用しましたか。



3 保健の授業で、児童に対する評価をどのように行っていますか。



4 保健の授業で、特に力を入れたいと思う点を選んで下さい。



#### 4 研究の視点

##### (1) 身近な生活から課題をつかむ工夫

児童が、学習に対する必要感を高め、自分の課題をつかみ、それを解決し、自らの生活実践に結び付けていくためには、課題づくりの最初の段階で自分の生活を振り返ることが重要である。自らの生活を振り返ることは、学習の動機づけとなるばかりでなく、まとめの段階で自らの生活の在り方を設計することにつながるからである。生活を振り返る手だてとして、自分の成長の記録が記入されている健康診断票等を学習資料とすることや、けがや病気の経験を振り返ったり、日常の生活の実態（食事や運動、睡眠等の健康にかかわることがら）が振り返れる学習カードを提供したりすると効果的である。

また、自らの生活を振り返ることから疑問や問題点を分類整理しながら、課題解決の見通しがもてる学習過程（課題づくりの段階）を工夫する必要がある。

##### (2) 解決の見通しをもって学習を進める工夫

児童が課題をもち、課題解決に向かって見通しを立て、意欲的に学習を進めていくためには、次のような活動が必要と考える。

- ① 単元全体の学習の流れを知る。
- ② 学習ノートを活用し、学習計画を立てる。
  - ・調べたいことをはっきりさせる。
  - ・調べる方法を考える。
  - ・まとめ方や発表の方法を考える。

##### (3) 学んだことを生活に生かす評価活動の工夫

- ① 今までの自分の生活を振り返り、自己診断する中から課題を見付け、学習に対する必要感を高めるようにする。
  - ② 毎時間の学習を自己評価する。
    - ・「課題づくりの段階」では、課題が解決可能で深まりや、発展性があるかどうかを考え修正していく。
    - ・「取り組む段階」では、発表したり、発表を聞いたりして、疑問に思ったことや分かったことなどを記入する。
    - ・「まとめる段階」では、学習したことを今後の自分の生活にどのように生かすかを記入する。
  - ③ 各グループの課題や学習内容を掲示し、グループが相互に評価したり情報交換したりするとともに、自分たちの課題や学習内容を見直す場面を設定する。
  - ④ 他のグループの発表を聞いて、「分かったこと」「疑問に思ったこと」「もっと知りたいこと」を学習カードに記入し、話し合いを深める手だてにする。
- ※ 児童の学習活動を肯定的に評価し、支援に結び付ける評価規準を設けた。

## 5 実践事例

### (1) 身近な生活から課題をつかむ工夫

#### <生活表の記入例>

課題づくり①  
自分の生活を振り返る  
 ・生活表→自分の生活を自己診断  
 ・質問紙→自分の生活を振り返る



課題づくり②  
自分自身の健康問題に気付く  
 ・健康に必要な条件を見いだす  
 (運動、睡眠、食事、よい水、  
 よい空気、日光、地域等)



課題づくり③  
健康な生活を送るためにもっと知りたいこと調  
 べたいことを考える  
 (なぜ野菜や肉をバランスよく食べなければなら  
 ないのか)



課題づくり④  
課題別グループをつくり、グループの中心課題  
 を考える  
 (栄養のバランスがくずれるとどうなるか)  
 (なぜインスタント食品の食べ過ぎはよくない  
 のか)

		月 日 ( )
睡眠	起床	7:00
	就寝	10:00
	時間	9時間
食事	朝	パン、牛乳、サラダ
	昼	カレーライス、サラダ、牛乳
	夜	牛丼、ホウレン草のおひたし
	間食	ポテトチップ、アイスクリーム
運動	ストレッチ、水泳、マット運動	
体重	35.6 kg	
体の調子 気分など	体の調子はよかったが少しいらいら していた。少しねむかった。	

#### <自己診断カードの記入例>

睡眠	ねる時間が遅くなってしま う。睡眠時間が少ないと学 校でもねむくなる。
食事	朝食を食べない日がある。 好ききらいはあまりないが 残すことが多い。
運動	ふだん外で遊ぶことが少な い。体育は苦手。家の中に いることが多い。

### 「第6学年・健康な生活」

#### <学習の展開> 45分×6時間扱いの1回目 「つかむ」段階

学習内容・活動	教師の支援
1 自分自身の身近な健康問題に気付く。 ・健康な生活を送るために必要なもの は何かを考える。	・事前調査で使った健康のアンケート、自 己診断カード、生活表を活用する。
2 課題づくりをする。 ・学習課題をつかみ課題別グループを つくる。	・自分の生活を振り返り、自己診断する中 から課題をつかませる。 ・学習内容を網羅できるように配慮しなが らグループ分けをする。

(2) 解決の見通しをもって学習を進める工夫

「第5学年・体の発育と心の発達」

□ は解決の見通しをもって学習を進めている学習活動・内容

<学習過程>

回	1	2
段階	つ	かむ
学習活動・内容	1 自分の体や心について振り返る。 (VTRや実態調査から) 2 単元全体の学習の流れを知る。 3 学習課題をつかむ。 (調べたいことを考える) 4 調べ方の予想を立てる。	1 課題別グループごとに課題をつかむ。 2 グループで学習計画を立てる。 (学習計画書を作成) ・調べる内容、方法、分担 ・発表の方法、分担

○単元全体の学習の流れを知る。

○グループで学習計画を立てる。

- ・調べたいこと
- ・調べる内容、分担
- ・調べる方法

<調べる方法>

- ・教科書や図書
- ・VTR
- ・図書館利用
- ・アンケート
- ・インタビュー(先生、親、医者、身近な人等)等

・まとめ方や発表の方法を学習カードに書く。

<まとめ方や発表の方法>

- ・絵や図で表す
- ・表やグラフを活用する
- ・視聴覚機器を活用する  
(写真、OHP、VTR、録音テープ等)
- ・劇化する  
紙芝居、劇
- ・クイズ 等

調べ学習 計画書

発表する日 月 日

グループのメンバー A, B, C, D, E, F

調べたいこと  
身長・体重のこと

調べる内容	調べ方(担当者)
A:なぜ身長が伸びるのか。	・本
B:なぜ身長が伸びるのか。	(C, E)
C:一人一人の身長の伸び方の違い。	(F)
D:小学生から中学生までの身長の伸び方。	・インタビュー (A, B)
E:身長はどんな時期によく伸びるのか。	・ビデオ (D)
F:男女の成長する時期は違うのか。	

発表の仕方	必要な道具
・絵、グラフ、表で表す。	・画用紙、ペン
・ビデオで見せる。 (自分の小さい頃)	・資料、TV ・ビデオ

(3) 学んだことを生活に生かす評価活動の工夫

「第6学年・病気の予防」

□□□□ は学んだことを生活に生かす評価を行っている学習活動・内容

<学習過程>

回	1	2	3	4	5
段階	つかむ	取り組む			まとめる
学習活動・内容	1 病気の経験や意識を振り返る。 2 病気を分類する。 3 調べたいことを話し合う。 4 課題をつかむ。 5 学習計画を立てる。 ・グループ課題 ・調べ方、発表 ・発表の仕方 等	1 調べたことを発表する。 2 質問したり答えたりする。 3 学習カードにまとめる。 ・分かったこと、疑問等 4 グループで疑問をまとめた後、話し合いでさらに深める。 5 学習を深めて分かったことを学習カードにまとめる。 ・今後の生活に生かそうと思うこと。 6 発表したり聞いたりする。	1 単元を通して今後の自分の生活の中でどう実践していくかを考える。  *学級活動などを通して、さらに定着を図る。		

- ① 自分の生活を振り返り、学習の必要感を高める。  
 (今までにかぜにかかった。熱が出たり下痢をしたりして困った。雨の日にぬれたままでいたからだと思う。等)
- ② 毎時間の学習を自己評価する。  
 「つかむ」……課題⇒ (かぜのウィルスはどうやって体に入るのだろうか) → (かぜにかからないようにするにはどうしたらよいか)  
 調べ方⇒ (養護の先生に聞こう) → (ポスターや図書室にもあるぞ)  
 発表⇒ (調べたことを順番に) → (クイズを出していこう)  
 「取り組む」…発表を聞きながらメモをとる。疑問をカードに書いて出し合う。  
 「まとめる」…今後の生活にどう生かすか  
 (帰ったらうがい手洗いをしよう。塩分や糖分のとりすぎに気をつけよう。)
- ③ 各グループが調べたことを随時掲示し、グループで相互に評価したり情報交換したりできるようにし、自分たちの調べることを修正していく。  
 (あのグループの調べていることには、僕たちと共通点があるね。僕たちも○○を調べてみよう。等)
- ④ 他のグループの発表を聞いて、「分かったこと、疑問に思ったこと、もっと知りたいこと」を記入し、話し合いを深める。  
 (ジュース1本には1日に必要な糖分の量の2倍も3倍も入っているんだ。たばこは吸わない人にも害があるのかな。塩がいっぱい入っている食べ物って何だろう。等)

## 6 課題解決的な学習過程

課題解決的な学習を進めるには、児童の課題解決的な学習に対する学習経験や発達段階の違いを考慮することが大切である。児童の学習経験や発達段階等に応じて、単元全体を課題解決的に取り組む学習過程と、単元の一部を課題解決的に取り組む学習過程とを選択することが必要である。

<学習過程の具体例>

第5学年「けがの防止」で単元の一部を課題解決的な学習として取り組んだ例

形態	課題解決的な学習				一斉学習
回	1	2	3	4	5
段階	つかむ	取り組む			まとめる
学習活動・内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                     学校生活のけがについて調べ、防ぎ方を考える                 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>けがの経験を振り返る。</li> <li>学校生活のけがの様子を知る。</li> <li>課題をつかむ。(調べたいけが)</li> <li>グループを決め学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>けがの原因や防ぎ方を調べたり、話し合ったりする。(第3時では中間発表)</li> <li>調べたことや分かったことをまとめ</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                         けがをなくそう！                          突き指 切りきず                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に発表する。</li> <li>理解を深める。</li> <li>「交通事故」</li> <li>地域で交通事故やけがが起きそうな場所を考える。</li> <li>事故防止マップを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故防止マップから、交通事故の原因や対策の理解を深める。</li> <li>生活実践に生かす手だてを考える。</li> </ul>

※なお、第6学年「病気の予防」のつかむ段階で病気の原因を分類し、その予防法等の一斉学習を行ったあと、単元の一部を課題解決的な学習に取り組むことも効果的である。

第6学年「健康な生活」で単元全体を課題解決的な学習として取り組んだ例

形態	課題解決的な学習					
回	1	2	3	4	5	6
段階	つかむ	取り組む				まとめる
学習活動・内容	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                     健康な生活を送るために大切なことと健康との関係について考える                 </div>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(事前に生活表をつける)</li> <li>身近な生活を振り返り、健康に生活するために必要なことを考える。</li> <li>課題をつかむ。</li> <li>課題別グループで学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに研究発表する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                         運動                     </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                         食事                     </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                         休養                     </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                         環境                     </div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                         学校、地域や家庭                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疑問やもっと知りたいことを話し合う。</li> <li>学習して分かったことをまとめる。</li> <li>まとめたことを発表したり、聞いたりして学習を深める。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことをもとに自分の生活を自己評価する。</li> <li>生活実践に生かす手だてを考える。</li> </ul>



## 表現運動部会

### I 研究主題・研究主題設定の理由

「児童が進んで運動に取り組み、自ら考え・工夫する体育学習」  
—— 表現運動の楽しさを通して ——

現在、学校教育においては、「自ら学ぶ意欲と、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」が求められている。体育科においては、生涯体育・スポーツの視点から、児童一人一人が生涯にわたって運動に親しみ、健康で安全な生活を営む態度や能力を育成することが課題となっている。そこで、教師は児童の興味・関心を重視し、児童自らが、より楽しく運動を行うために、練習方法を工夫できる能力や進んで運動に取り組む態度を育てることが大切である。

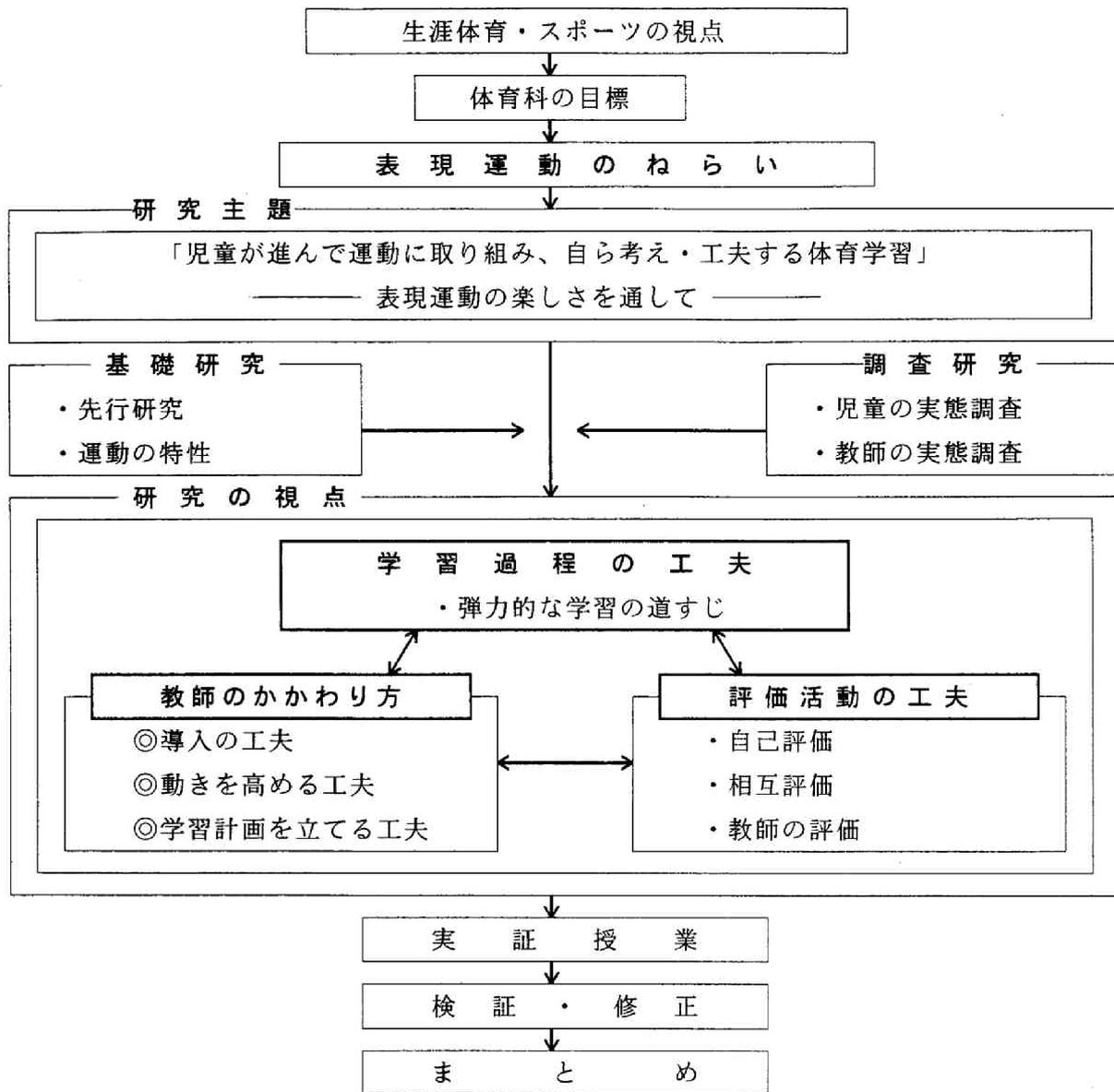
このような視点に立った学習指導を行うためには、それぞれの運動のもつ楽しさや喜びを児童の立場からとらえ直し、児童がそれぞれの運動の特性に触れる楽しさや喜びを十分に味わえるようにすることが重要である。そのためには適切な支援や学習の道すじの工夫などを行うことによって、児童一人一人の思いや願いを十分に発揮させる必要がある。

また、児童が自分の能力に適した課題をもち、見通しをもって運動に取り組み、動きを工夫するとともに、自分の学習を常に振り返り、新しい課題をもって学習に取り組むことができるようにすることが必要である。

このような考え方を踏まえ、本年度は研究主題を、「児童が進んで運動に取り組み、自ら考え・工夫する体育学習 ——表現運動の楽しさを通して ——」と設定し、「表現運動」を通して研究を深めることとした。また運動の特性に着目し、それに触れる楽しさを十分に味わわせながら、一人一人のよさや可能性を伸ばしていく授業づくりを目指して、以下の視点を重視し研究を進めていくこととした。

- (1) 児童一人一人が、表現運動の楽しさを十分に味わえるような学習過程を工夫する。
- (2) 児童が主体的に学習に取り組むための教師のかかわり方を明らかにする。中でも、「導入の工夫」「動きを高める工夫」「学習計画を立てる工夫」を重点に考える。
- (3) 児童が互いに認め合い、励まし合い、自己を振り返りながら、学習を進めていく評価活動を工夫する。

## II 研究の構想



## III 研究の内容

表現運動は、情操豊かな人間性を育む上で大切な領域である。また、児童が自ら感じたことを体の動きを通して表し、そのものになりきって踊る楽しさや、仲間とともに考えつくりあげて踊る楽しさを味わうことができる運動でもある。

しかし、実際に表現運動の学習について、多くの教師は「表現運動が難しい」と考え、取り組みが消極的になっている面が見られる。また、児童も他の運動領域に比べ、興味・関心が低い傾向にあることが指摘されている。なお、今回の調査から表現運動の学習では、友達と仲良く活動できた時やおもいきり体を動かした時などは、楽しいと感じていることが分かった。そこで、一人でも多くの教師が表現運動のよさを理解し、自信をもって指導できるようにしていくことが大切であると考え、分かりやすい指導内容と指導方法の確立を目指すこととした。

# 1 実態調査

## (1) 調査の目的

「表現運動」における児童の意識と教師の意識、及び指導の実態を調査し、研究を進めていく上での手掛かりとする。

## (2) 調査の方法

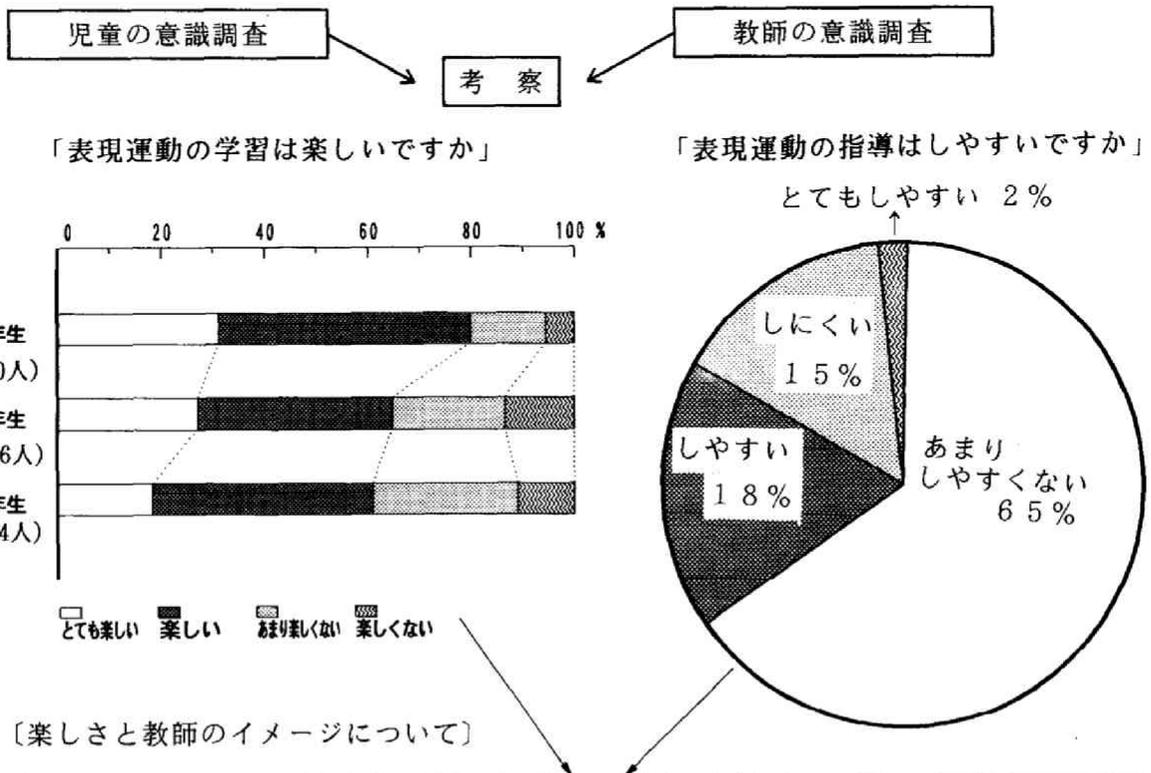
① 調査時間 平成7年6月中旬

### ② 調査対象

調査対象 ・児童 研究員（表現運動部会）所属校の3～6年生  
 ・教師 研究員所属の学校及び区市の無作為抽出校3～6年の学級担任

<回答数>	3年	4年	5年	6年	合計
児童	485	460	566	514	2,025人
教師	447人				

## (3) 調査結果の分析と考察

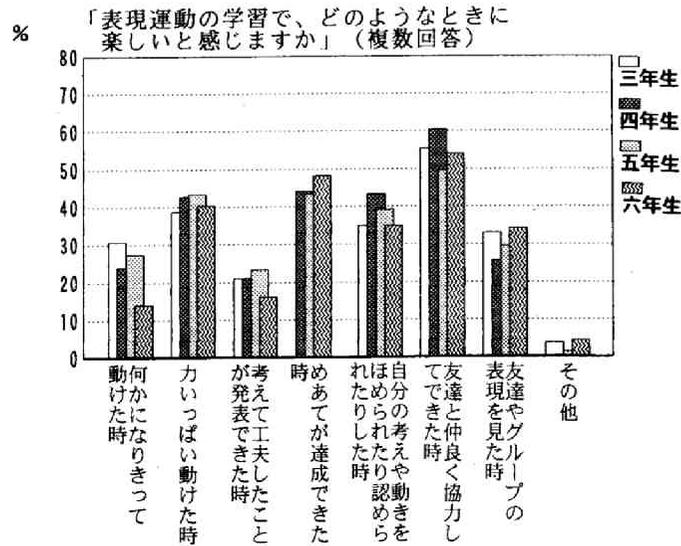


教師の80%が指導のしにくさを感じている反面、児童の約70%は楽しさを感じている。表現運動のイメージとして教師は始めから「児童がのらない・恥ずかしがる」という思い込みがあり、また苦手意識をもっているものと考えられる。しかし、児童の学年が上がるにしたがって、楽しさを感じる割合が低くなっていることから、児童の実態をふまえた学習過程や教師のかかわり方を工夫し、どの児童にも表現運動の楽しさを味わわせるとともに、指導しやすい方法を考えていく必要がある。

児童の意識調査

考察

教師の意識調査

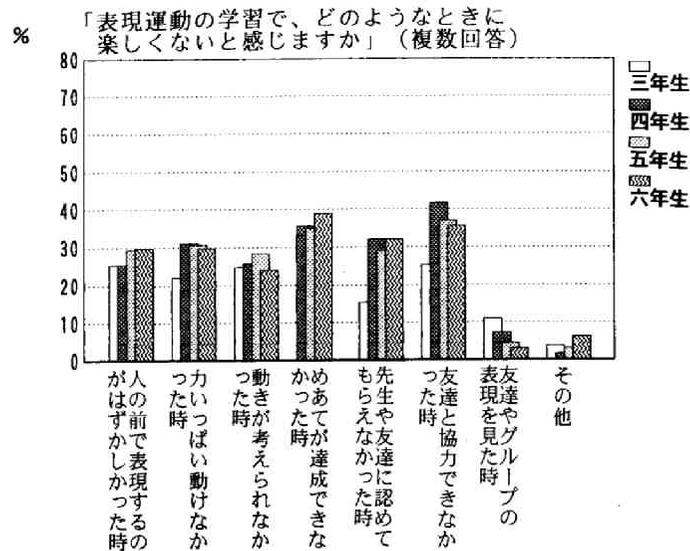
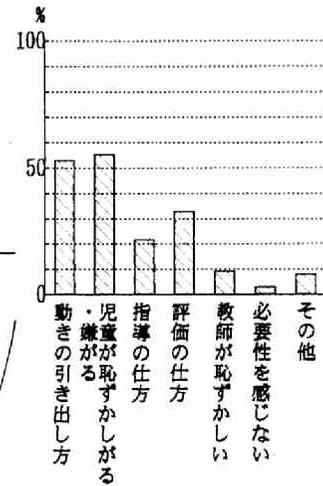


【動きの高め方や工夫について】

児童の工夫に関する意識は、他と比べて低い割合を示している。協力の意識やめあての意識は高い反面、「動きを考えること」に対する児童の意識は低い。そこで、動きを考えることへの意識を高める一方策として「工夫する楽しさを」味わわせる必要がある。

また、教師も「動きの引き出し方」や「指導の仕方」に悩みがあることから、動きを引き出し、高めていくための工夫の視点・工夫例・発問や助言の仕方について、明らかにする必要がある。

「表現運動を指導する上でどんなことで悩んでいますか」(複数回答)

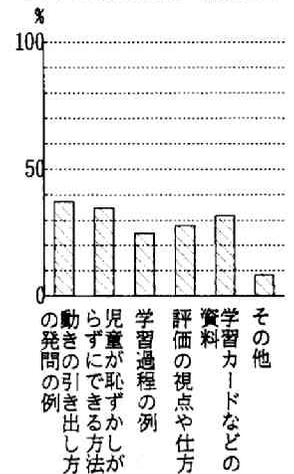


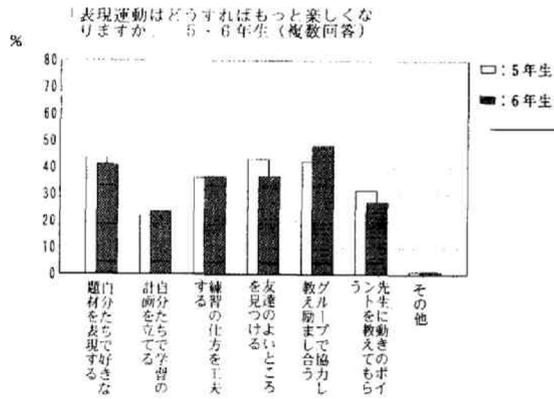
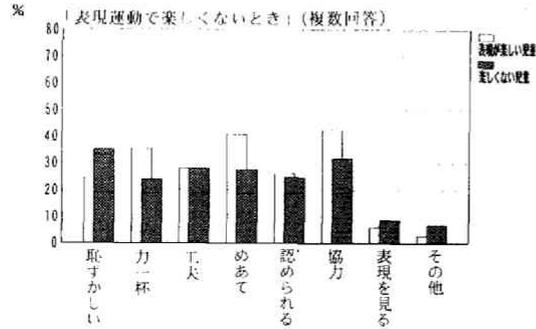
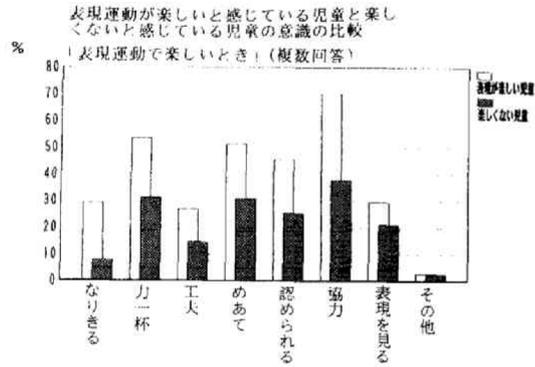
【なりきることにについて】

児童は「なりきる」ことの楽しさを感じている割合が低く、特に6年生では顕著である。

また、表現運動が楽しくないと感じている児童にとっては、なりきることへの抵抗感や恥ずかしさが高い割合を示している。そこで、学習の初期の段階からなりきって動くことへの抵抗感をなくしていく指導の方法を明らかにする必要がある。

「何があれば、もっと指導しやすくしやすくなりますか」(複数回答)

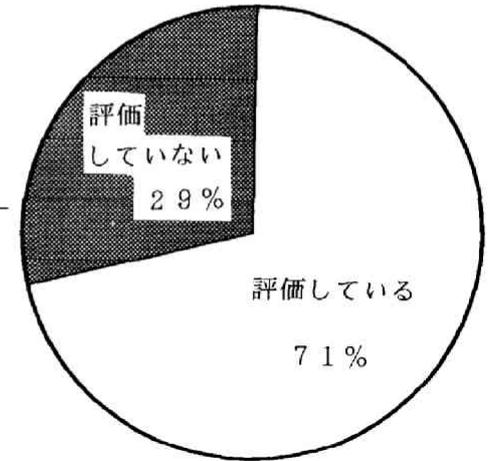




【評価について】

児童にとって動きを工夫することがめあてにはあまりなっていないと考えられる。したがって、児童が動きの工夫にも目をむけるような自己評価・相互評価の仕方を考えていく必要がある。また、児童は楽しくなるための方法として、教え合いやよさの発見などに着目している。このことから、相互評価により自己理解を深めていくことが有効であると考えられる。さらに、教師の3人に1人は、評価について悩んでいることから、具体的な評価規準や評価計画を作成する必要がある。

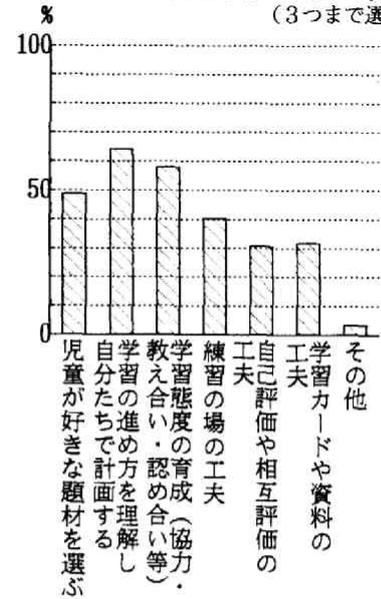
「評価を行っていますか」



【学習計画について】

教師は自ら考えたり工夫したりするために必要なものとして、児童の好きな題材を選ぶことや協力の必要性をあげ、児童も楽しくなるための方法として同じことをあげており、意識の一致が見られる。一方、学習計画の必要性については教師だけが強く感じ、児童はあまり意識していない。自分たちでつくり上げた楽しさを味わうためにも、学習の計画が立てられるような学習過程を考える必要がある。

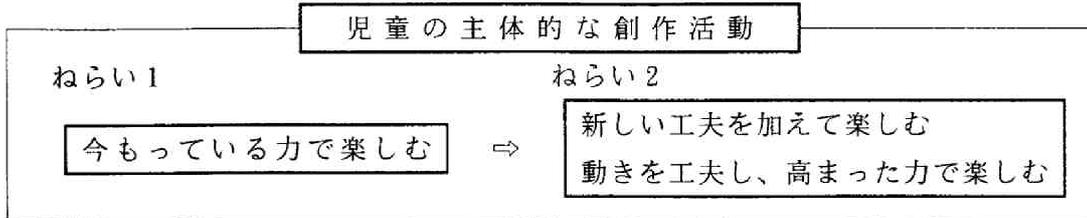
「児童が自ら考えたり工夫したりしていくためにとくに必要と思うものはなんですか」(3つまで選択)



## 2 研究の視点

### (1) 学習過程の工夫

学習過程は、児童が学習のねらいを達成するために主体的に学習を進めていく道すじととらえた。そのためには、表現運動の特性である「踊る・つくる・見る」楽しさを味わうこと、「自分たちで一つの作品をつくり上げた」喜びを感じる事が大切である。そこで、児童の主体的な創作活動を中心としながら、今もっている力で十分に楽しみ、さらにそこから動きの発見や新たな工夫を生かして楽しむ過程を重視するとともに、児童の実態や学習のねらいに応じて学習過程を弾力的に選択できるように工夫した。



### (2) 教師のかかわり方

意欲的な学習を進めるためには、児童のイメージや動きを広げる支援が必要である。また、自分たちがつくり上げた楽しさを味わうためには、学習の見通しをもって取り組む手だてを考える必要がある。そこで、教師のかかわり方の重点項目として次の三点を考えた。

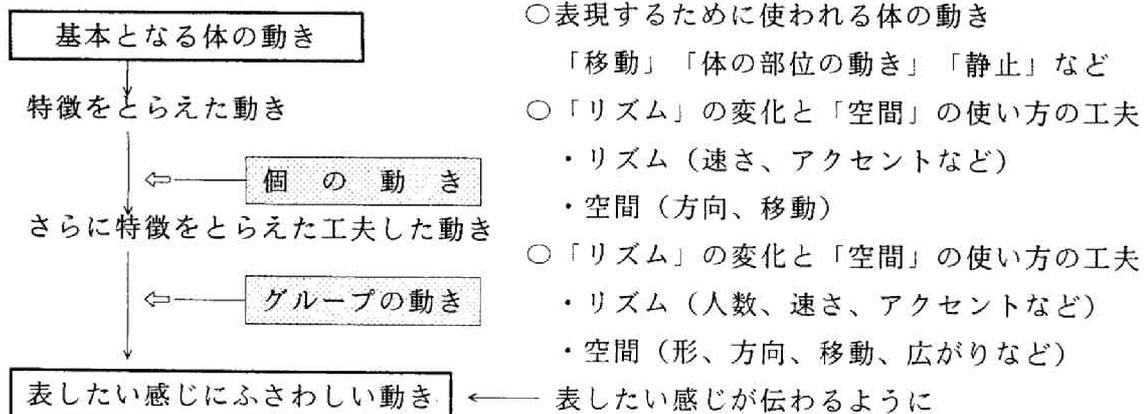
#### ① 導入の工夫

学習の初期の段階の教師の支援を工夫することにより、表現運動の楽しさを十分に味わい、その後の学習に意欲的に取り組む児童が育つものと考えた。

- 各単元のつかむ段階の工夫  
児童が題を選択し、自分が表したいものを表現できるようにする。
- 1単位時間の導入の工夫  
恥ずかしさを取り除き、動き方が楽しく感じられるように、言葉かけを工夫するとともに適切な題材が選択できるようにする。

#### ② 動きを高める工夫

学習では、イメージしたものを体の動きで表す創作活動が中心となる。そこで、まず動きを引き出す言葉かけや資料の提示を考えた。また、個の動きを高めることやグループの動きを高めることに重点をおいて支援することにより動きが高まると考えた。



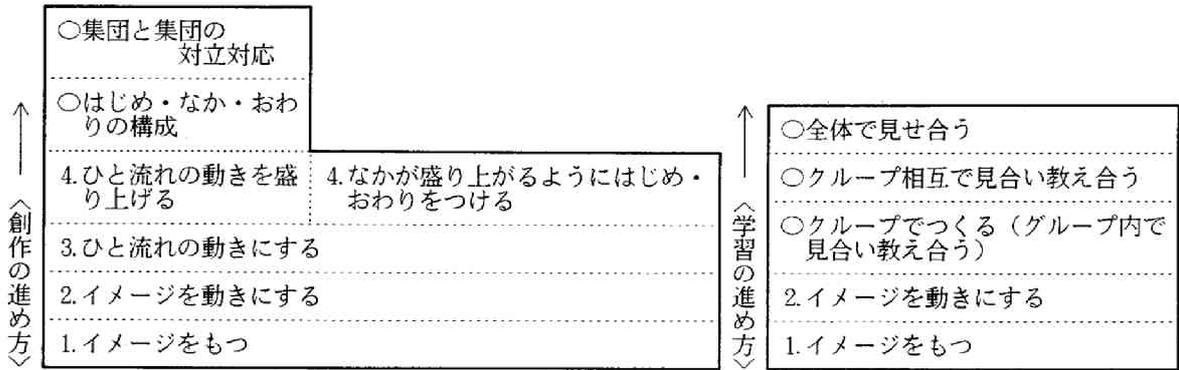
③ 学習計画を立てる工夫

「児童が見通しをもって進んで取り組む」とは、「児童が学習計画を立てて学習する。」ととらえた。学習計画を立てるために、まず学習の流れの理解、そして創作の進め方と学習の進め方の理解を重視することとした。創作の進め方が分かることは、学習を進める上で特に重要であると考えている。

○作品づくり（動きづくり、動きの工夫の仕方、見る観点など）をどのように進めたらよいか。・・・＜創作の進め方＞

\*どんなに短い動きでも「児童がつくった動き」は、「作品」ととらえた。

○学習（学習の流れ、見合い方、話し合いの仕方、時間など）をどのように進めたらよいか。・・・＜学習の進め方＞



(3) 評価活動の工夫

① 自己評価

児童が主体的な学習を進めるためには、自己評価活動を通して、自己理解を深めることが大切である。そこで図のような自己評価活動を学習の中に位置付けた。これらの活動を通して、自分のよさに気づき、自信がもてるものとする。

\*学習カード・自己評価カードの活用

② 相互評価

表現運動の特性の一つに「見る楽しさ」がある。グループ内や、グループ同士でも動きを見合って、互いによさを認め合い、高め合うことができるのは、表現運動の特性でもある。またそれは、自己評価活動を行う上で大変重要な活動でもある。そこで、学習の中に見合う場を取り入れ、共に伸びていこうとする相互評価を重視する。

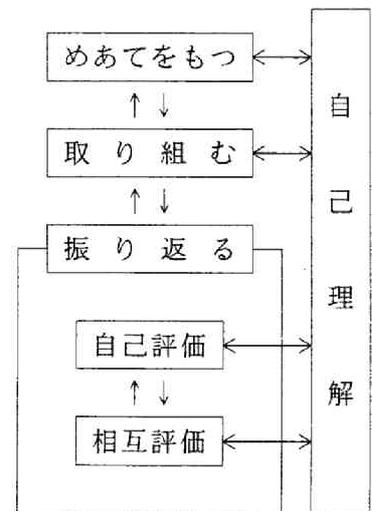
\*見合いの学習、学習カード・相互評価カードの活用

③ 教師の評価

教師は、次のことを基本的な考え方として評価活動を行う。

- よさや可能性を認め、伸ばす評価。
- 児童の自己理解を支援する評価。
- 学習意欲を高め、主体的な活動を促す評価。

また、教師の評価を充実させるために、評価規準及び、評価計画を作成する。



### 3 実践事例

#### (1) 学習過程の工夫

##### ① 弾力的な学習の道すじ (    はねらい2を表す)

表1 弾力的な学習の道すじ

パターンA	ねらい1	ねらい2	ねらい1	ねらい2
パターンB	ねらい1		ねらい2	

- 児童の学習の準備状況に応じて学習過程が工夫できるように考えた。
- 各単元の時数は固定せず、児童の実態や学習のねらいに応じて弾力的に考える。

##### ② 中学年での弾力的な学習の道すじ

- 中学年の学習過程はパターンAとBを基本とした。パターンBの中では、ねらい1・ねらい2の時間配分を工夫することによって弾力化を図った。なお、ねらい1では全員が同じ題材で即興表現で踊って楽しみ、ねらい2では題材からイメージを広げて動きを工夫し簡単な作品をつくらせて楽しむ過程を重視していくこととした。

表2 中学年の弾力的な学習の道すじ

ア「軽い柔らかい感じの動き」 イ「硬い機械的な感じの動き」  
ウ「にぎやかにはずむ動き」 エ「激しい力強い動き」

＜パターンA＞の例				＜パターンB＞の例			
ア3年 ウ4年	ア3年 ウ4年	ア3年 ウ4年	ア3年、ウ4年	イ3年 エ4年	イ3年 エ4年	イ3年 エ4年	イ3年、エ4年
* 1つの動きをまとめて扱うことによって、その動きの学習をより充実させることができる。ねらい1では1時間ごとに題材を変えて、踊る楽しさを味わえるようにした。							
* ねらい2を大きくまとめてとることによって、創作活動をより充実させることができる。ねらい2ではよりイメージを広げていく単元として、3年では選択(ア・イ)、4年では総合(ア・イ・ウ・エ)を取り入れた。							

##### ③ 高学年での弾力的な学習の道すじ

- 高学年ではパターンBを基本に考え、その中で弾力化を図った。
- 第5学年では、主に創作の進め方を中心とした学習の道すじを考えた。第6学年では、イメージのとらえ方が難しく、より大きなグループでの活動となる「ウ」を最初の単元とし、その後は学習の進め方を中心とした学習の道すじを考えた。
- 高学年では、主体的な創作活動を中心とすることから、身に付けてきた学び方を生かし、自分たちで題を考え学習を進める単元として「総合」を位置付けた。

表3 高学年の弾力的な学習の道すじ

(5年)	＜やさしい道すじ＞	ア「軽い感じや飛び跳ねる感じ」 つかむ・取り進む・動かめる	イ「激しい感じと格闘する感じ」 つかむ・取り進む・動かめる	エ「はじめ・なか・おわりを工夫して」 つかむ・取り進む・動かめる
	＜進んだ道すじ＞	ア・イ「軽い感じや飛び跳ねる感じ」「激しい感じと格闘する感じ」 つかむ・取り進む・動かめる		エ「はじめ・なか・おわりを工夫して」 つかむ・取り進む・動かめる
(6年)	＜やさしい道すじ＞	ウ「対立・対峙する感じ」 つかむ・取り進む・動かめる	総合「例示の要素を含む題材からの選択」 つかむ・取り進む・動かめる	総合「例示の要素を生かして自由な題材で」 つかむ・取り進む・動かめる
	＜進んだ道すじ＞	ウ「対立・対峙する感じ」 つかむ・取り進む・動かめる	総合「例示の要素を生かして自由な題材で」 つかむ・取り進む・動かめる	

(2) 教師のかかわり方

① 導入の工夫 (中学年の実践例)

ア 各単元の「つかむ段階」の工夫

児童が踊る楽しさを味わうために ねらい1では毎時間ごとに題材を変えて即興的に動き、踊る楽しさを味わうことができるようにした。

題材 ねらい1：イメージがはっきりしていて簡単に動きづくりができる題材  
ねらい2：児童がイメージを広げいろいろな題を考えられる題材

イメージをもつために ビデオ・絵・写真を見る、実物を観察する、その物で遊ぶ、音を聞くなどの工夫をした。

動きを引き出すために いろいろな動きが自然に出てくるように、題材の動きが変化するような言葉かけをした。(下記 表2【言葉かけ例】参照)

イ 1単位時間の導入の工夫

ウォーミングアップ 1時間の学習にスムーズに入れるよう内容を工夫した。恥ずかしさを取り除き、動きが楽しく感じられるように毎時間の内容に変化をつけた。(動きと静止をはっきりさせる・声を出させる・ゲーム的要素を取り入れる)  
・動きが簡単で誰もがすぐに取り組みるものにした。

表1 「第4学年「にぎやかにはずむ動き」学習過程の一部」

ねらい 1			ねらい 2	
つかむ・取り組む・確かめる	つかむ・取り組む・確かめる	つかむ・取り組む・確かめる	つかむ	取り組む
1	2	3	4	5
1. ウォーミングアップ ・走って止まる ・スキップして止まる ・猛獣狩りに行くよ 2. 学習のねらい・進め方を 知り学習の進め方をもつ 3. 「ポップコーンが見える まで」のVTRを見る 4. 共通の題材「お祭り」で、 教師の言葉かけを中心 にたくさんの動きをイメ ージして動く。	1. ウォーミングアップ ・走って止まる ・スキップして「ヤー」 ・進化ジャンケン 2. めあてや学習の進め方を 確認する 3. 「野菜いためができるま で」のVTRを見る 4. 共通の題材「お祭り」で、 教師の言葉かけを中心 にたくさんの動きをイメ ージして動く。	1. ウォーミングアップ ・走って止まる ・スキップして「アツ」 ・だるまさんがころんだ 2. めあてや学習の進め方を 確認する 3. 「花火の音」を聞く 4. 共通の題材「お祭り」で、 教師の言葉かけを中心 にたくさんの動きをイメ ージして動く。	1. ウォーミングアップ ・走って止まる ・様々な部位を使って跳ねる 2. めあてや学習の進め方を確 認する 3. 「お祭りの様子」の音を 聞く 4. 「お祭り」からイメージを 出し合う 5. 一人ずつイメージした動き を、グループで動いてみる	1. ウォーミングアップ ・走って止まる ・だるまさんがころんだ [ガト:2] 2. めあてや学習の進め方を確認 する 3. グループで考えた中心となる 動きを確認する 4. ペアグループで見合う、 よさを見つけ合ったり、感想 を出し合ったりする 5. 感想をもとに動きを工夫する

② 動きを高める工夫 (中学年の実践例)

言葉かけ ねらい1では、4つの動き(ア、イ、ウ、エ)からそれぞれ特徴のある動きを取り上げ、引き出した動きとそのための全体に対する言葉かけを考えた。言葉かけは、題材に合った話の筋にそったものにした。また、個やグループ

の動きに適した言葉かけやよい動きに対する賞賛を行った。

資料の提示 引き出した基本的な動きを簡単な絵や文で記録しておくようにした。また、話し合いや見合いで出された、工夫した動きも記録し、それらを動きを高めるための資料として掲示した。

表2 【言葉かけ例】

〈單元〉 にぎやかにはずむ動き  
〈特徴ある動き〉 ○連続して、とびはねる  
○縮む・伸びるを繰り返す  
○より多くの友達と  
ポップコーン  
〈題材〉 ポップコーン  
〈話の筋〉 ○フライパンに、とうもろこしを入れて、火を付けてポップコーンができるまで

引き出した動き	そのための言葉かけ
○体を小さくして、回る	「さあ、フライパンの中にとうもろこしをどきっと入れてみるよ」
○色々な方向へ走る	「ちょっとまぜてみよう」
○手足を伸ばしながら、体をひねる	「だんだん熱くなってきたよ」 「あちちち、皮が割れそうだ」
○両手をぱっと広げ、とびはねる	「一つめが、ポップコーンに変身したよ」
○くりかえしとびはねる	「二つめ、三つめ、もういっぱいだよ」
○色々な方向に移動しながら、とびはねる	「フライパンの外にとび出ちゃったのもあるよ」
○まわりの友達と動きを合わせて、とびはねる	「残り全部が、いっぺんにポップコーンに変身したよ」

③ 学習計画を立てる工夫

<第5学年授業実践例「激しい感じと粘る抵抗ある感じの動きを使って」>

○学習の流れをつかむ手だて

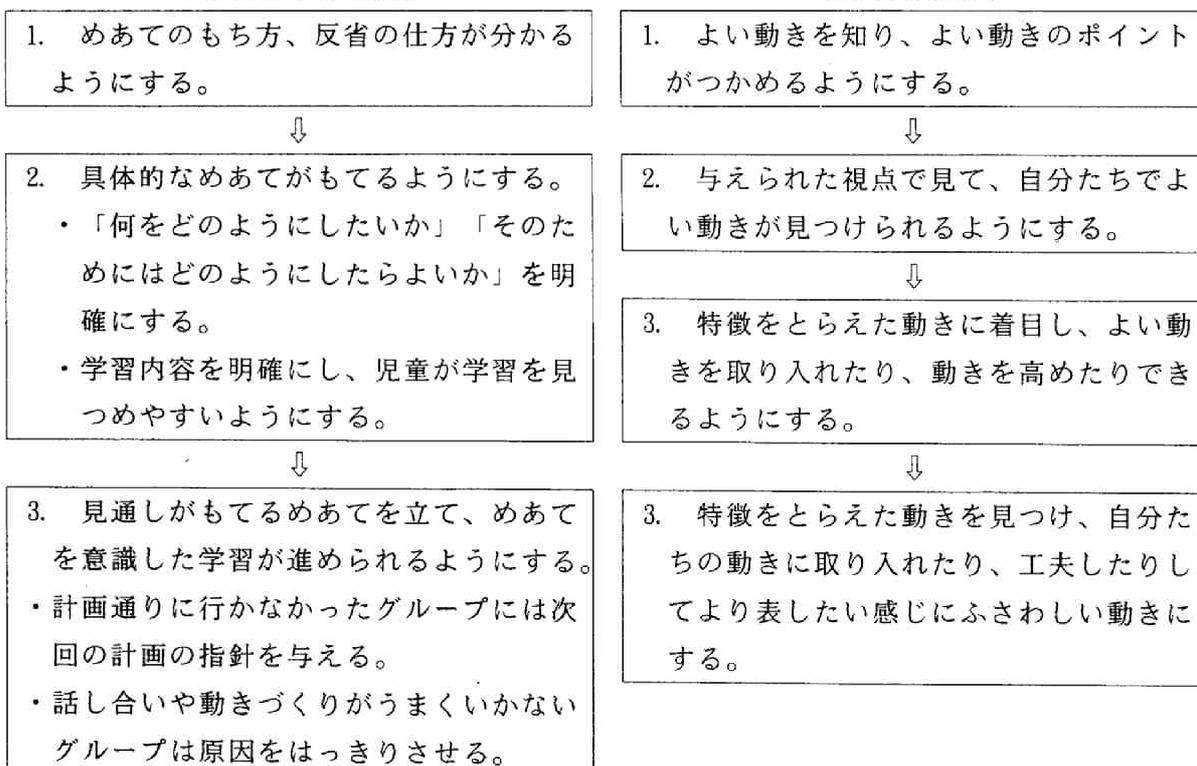
- ・学習の流れのもととなる作品の創作を児童がどのように進めればよいかをつかみ、見通しをもつことができるよう単元全体の流れや内容を掲示した。
- ・1時間のなかのグループで動きをつくる部分の内容を明確にした。(表内.....部分)

(1 時)	(2 時)	(3 時)	(4 時)
<p>&lt;話のすじを考える&gt;</p> <p>1.めあてを確認する。</p> <p>.....</p> <p>2.イメージを出し合う。</p> <p>3.イメージしたものを動いてみる。</p> <p>4.題を決める。</p> <p>5.話のすじを考える。</p> <p>6.学習を振り返る。</p>	<p>&lt;グループで決めたすじの動きを考える&gt;</p> <p>.....</p> <p>2.話のすじを確認する。</p> <p>3.動きをつくる。</p> <p>4.考えた動きをみんなで動いてみる。</p> <p>5.ペアグループで動いてみる。</p>	<p>&lt;表したい感じができるように動きを工夫する&gt;</p> <p>.....</p> <p>2.グループで動きを工夫する。</p> <p>3.ペアグループと見合い教え合う。</p> <p>4.教えてもらったことをもとに動きを工夫する。</p> <p>5.もう1度ペアグループに見て貰ってもよい。</p>	<p>&lt;全員で見せ合う&gt;</p> <p>.....</p> <p>2.グループで動きを高める。</p> <p>3.全体で見せ合う。</p>

○めあてのもち方・動きの見方の段階

〔めあてのもち方〕

〔動きの見方〕



(3) 評価活動の工夫（高学年の例）

肯定的な自己理解をする目を育てるために次のような手だてを考えた。

① 自己評価

《個人学習カードの工夫》

○個人学習カード

短時間で簡単に自分を振り返ることができるものにする。

② 相互評価

ア グループ内での相互評価

○交代で見合う

一人が見る役になり、よさを見つれたり、教え合ったりする。

○グループ学習カード

話し合いを活発にし、短時間で、学習を振り返ることができるようにする。

○まとめの話し合い

個人カード記入後に話し合うことで一人一人の考えを出しやすくする。

イ グループ間での相互評価

○見合い

よさを見つれたり、教え合ったりした。見てほしいところを伝えて、互いに高め合うことができるようにする。

③ 教師の評価

評価計画を立て、評価標準から具体的なよさの現れを見取っていく。

表現運動学習カード (個) 5年 / 組 名前

期	1 10/16	2 10/14	3 10/20	4 10/27
めあて	その時間のめあてが分かる	たくさん動いてみんなのいいところをわづらした。	工夫をして新しい動きをつくる。	みんなが楽しめるように工夫する。
楽しめたか	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
感想	一日で学習を楽しめたかどうか分かる	最高のすべとが、今夜はそれだけでいい。	3分工夫でできたグループに見てもらったのがうれしかった。	みんなの協力と協力合せて楽しかった。夜更のいいところをたくさんわづらした。

レーダーチャートの自己評価項目は学習の内容に応じて変えていった

記入できる時間を取り出す

単元全体の振り返りができる

自己評価自体を楽しめる

《グループ学習カードの工夫》

表現運動学習カード グループ (ふん火)

期	ふん火	題や表したいことがはっきり分かる
表したいこと	マグマが流れる所	

○話のすじを言葉や絵にしてみましょう。(作った動きをメモしておこう。)

はじめ → なか → おわり

固まっている → 少しずつゆがんで動く → けつった動きを書き残してお

はげしくねはるとかへはねる → 火はしらすとねはねる → ちりながらねはる

おわり → ねはるよう流れる → あいぬき → 動きが固くなる → 固まる

表したいことのすじが表せる (言葉や絵を使って)

学習の進め方について計画を立てよう。

時間	1 (10/16)	2 (10/14)	3 (10/20)	4 (10/27)
めあて	その時間のめあてが分かる	様子からうかがいように動く	おもいやり動く	力強くはげしく動く
学習の進め方	イメージを持ち、それを動かししよう。話の筋を簡単にしよう。	動きをつくらう。一人ずつねけて見る	動きを工夫しよう。一人ずつねけて見る。ペアグループに見てもらい、とねはねる所をくわしくする	発表し合おう。あいぬきの所かたまる所
評価項目	学習の進め方が計画できる			時間を取らずに記入できる
感想	いいイメージがわかんてよかったです。	思ったよりうまくできました。	ほかの班の動きを見てよかったです。	ほかの班のアドバンスを見てよかった。

グループとしての感想を書き込める (個人学習カードをもとに)

## 保健部会

### 1 研究の成果

#### (1) 身近な生活から課題をつかむ工夫

○自らの生活の中から問題を見つけ課題をつかむことによって、関心や意欲を高めることができた。

#### (2) 解決の見通しをもって学習を進める工夫

○調べ方や発表の仕方の例を提示することで、児童が見通しをもつことができた。

○グループの学習をとり入れ、話し合うことにより、課題を解決する見通しをもつことができた。

#### (3) 学んだことを生活に生かす評価活動の工夫

○学習したことをもとに自分の生活を振り返ることで、健康・安全に関心をもつことができた。

○学習したことを身近な人に伝えたり行動に表したりすることで、よりよい生活環境づくりをしようとする意欲をもつことができた。

### 2 今後の課題

(1) 基礎的基本的な知識の定着を図る工夫が必要である。

(2) 児童が主体的に活動する個に応じた支援の工夫が必要である。

(3) 課題解決的な学習に適した学習内容をさらに検討する必要がある。

## 表現運動部会

### 1 研究の成果

(1) 学習過程を「ねらい1」「ねらい2」の2段階で作成し、児童の実態に応じた弾力的な学習の道すじを考えたことで、児童が主体的に学習に取り組めた。

(2) つかむ段階や1単位時間の導入段階の工夫によって、「恥ずかしさ」を取り除いて踊る楽しさを味わわせ、学習にスムーズに入れた。

(3) 動きを高めるために、資料の提示や教師の言葉かけを工夫したので、児童が自信をもって動きづくりに取り組めた。また、学習計画を立てるために、「創作の進め方」と「学習の進め方」の2点に重点を置き、話し合いの視点を明確にしたことで、児童が見通しをもって学習に取り組めた。

(4) 学習カードの工夫や見合いの時間を設定したので、児童が自己の活動を振り返ったり友達のよいところを積極的に認め合ったりすることができた。

### 2 今後の課題

(1) 児童が「踊る楽しさ」「つくる楽しさ」「見る楽しさ」を十分に味わえる学習過程をさらに追究する。

(2) 動きの高め方や学習計画を立てるための手だてをさらに明確にし、主題に迫る教師のかかわり方を追究する。

(3) 評価計画の内容を吟味して、より個に応じたものに改善する。